

2015年度 第5回 ふしぎ探検隊

日時：2015年6月26日(金) 18:00～19:30

内容：学校へ行くってどんなこと？

参加者：人間発達学科4年生 4名、心理福祉学科2年生 1名、

グローバル・スタディーズ学科2年生 1名、

卒業生 1名、教職員 3名

計9名

ドキュメンタリー「世界の果ての通学路」(77分)を鑑賞。資料を用いて、お金と知識との関係やそこから生まれる格差について、学制などの日本教育の歴史、文科省データからは就学率の推移など、様々な角度から教育について考えを深めた。

参加者感想(一部)

- ・様々な通い方で学校に来ている子供を見て、日本にいる子供たちの教育環境はめぐまれていると感じたし、私ももっと勉強をがんばらなければと思った。
- ・「なぜ学校の近くに引っ越さないのか」というのが一番の疑問。ただこれは日本でも僻地に住んでいる人に、もっと便利なところに移ればよいのにと指摘することとおなじだろうと思う。教育を受けることの価値よりも生まれた場所に住むということの方が大事なのかもしれない。
- ・生命の危険もある登校路を毎日通学する子どもたちの明るさがいいな—と思った。教育現象は社会の産物なのだが、経済や機会のグローバル化と教育の関連を痛感させられた。
- ・“1人じゃなくてよかった”という言葉が印象的なDVDでした。改めて教育、学校について考えることができました。
- ・教育こそが未知を開いてくれるとビデオに出てきた皆が信じていることが強く伝わってきました。今は皆順調に自分の道を進めているようだけれど、大きい夢を持つ子ほど、その先信じていた教育に裏切られてしまう瞬間がもし来てしまったら…と思うとそういう時はずっと来ないでほしいとしか思えない。
- ・私が今回のDVDを見て気になったことは、教育を受ける意味よりも学校へ行く意味についてです。子どもたちは学校へ行って楽しそうにしていました。「友だちに会える！友だちと話せる！」そのように同年代の子と共に学べることを喜んでいました。同年代の子とふれあえる時間というのが子どもたちにとって人間的に成長できる重要な機会なのだと思います。学校へ行くということはそのようなことで意味があるのだと思います。何のために学ぶのかについては今回のDVDを見て考えることができました。もっと理解を深めたいです。意見交換をしてなぜ私たちは学校へ行くか語りたかったです。

これまでは、理科系の実験が多かったふしぎ探検隊ですが、今回のテーマに関してはいつもと違うということで、ふしぎ探検隊自体がふしぎがられるということになっておりました。参加した学生からは参加して考えさせられたという反響が多かったので、今後も社会系ふしぎ探検も合わせて実施できればと考えております。